僕のファ〇リナさんの
×
布教活動日記

ファ〇リナさんと身体を重ねてから、気が付けば彼女のことを探してしまう。
これが初恋というものなのだろうか。

だけど僕が知った彼女の生活は、"痴態"そのものだった。

○月×日
ヨロイのインターフェイスの調節という名目で
メカニックたちがファ○リナさんの身体を調べていた。
ある者はその豊満な胸を揉みしだき、またある者はなんとファ○リナさんの
股の臭いを嗅いでいた。
おっぱいの弾力が足りないだとか、マンコの臭いが強すぎるだとか……
こんなのただのペッティングじゃないか。
ヨロイを動かすことと何の関係があるというのだろうか。
そして最後には電気体質の調査ということで
ファ○リナさんの弱い所を触っては何度もイカせていた。
ファ○リナさんは終始、艶やかな声をあげていた。
くそう、僕もファ○リナさんの身体を隅々まで調べたい！

ハァ
ハァ
プシャッ♡
ピュッ♡

〇月×日
ダリアの武器である三節棍を扱うための訓練らしく、
ファ〇リナさんはパイズリの練習を日課としている。
そのために今日も組織の中でも一番の長いペニスを持つ男が選ばれた。
長い肉棒はファ〇リナさんの豊満な胸によって執拗に挟まれ、飛び出した
亀頭はプルプルの舌で舐められていた。
ちくしょう、なんて気持ちよさそうなんだろう。
ファ〇リナさんの妖艶な戦い方にはこんな秘密があったのか。
僕も一緒に練習したいよう！でも僕のじゃあの胸から顔を出すこともできない。
くそう！
嬉しそうに巨根を嘗め回すファ〇リナさんの笑顔が頭から離れない。

ドピュ
ビュルル

○月×日
今日たまたま訓練場に行ったら何やら人だかりが出来ていた。
人込みを掻き分けて中に入るとなぜか裸で新兵たちが一列に並んでいた。
何事かとのぞき込むと、なんとファ○リナさんが新兵たち一人一人のチンポにフェラチオをしていた。
組織の反乱分子を生まないように、こういったガス抜きを定期的にしているらしい。
イキリ立った若者の肉棒を愛おしそうに、丹念に嘗めまわすファ○リナさん。
新兵から出された臭くて苦そうなザーメンを文句ひとつ言わず飲み込み、
次のチンポをしゃぶるファ○リナさん。
なんてこった！こんなイベントが行われていたなんて！
あの列にしれっと並べば、僕のも舐めてくれるのだろうか。

ドビュル
ビュ
ビュルル

○月×日
やたらと恰幅のいいおっさんが基地へと招かれた。
なんでも計画の根幹を担う大事な商品の元締めをしている者らしい。
交渉は難航し続けたが最後におっさんはなんとか折れてくれた。
その晩おっさんの客室から光が消えることはなかった。
どうやら同志はファ○リナさんの身体を交渉材料に使ったらしい。
おっさんの顔に股を広げて、その怒張したチンポを丹念にフェラするファ○リナさん。シックスナインの体勢だ。
おっさんは鼻息を荒げながらファ○リナさんの股を執拗に嘗め回す。
互いの性器を愛撫し続けるその宴は朝まで続いた。
計画のためとはいえ、複雑な気持ちだ。

ドビュ
ビュル
ピュッ

○月×日
ファ○リナさんと一緒に負傷した兵士たちのキャンプに慰問に訪れた。
傷病兵たちは僕ら幹部が来ると無理やりにも元気に取り繕っていた。
その光景は痛ましく、僕は直視できなかったがファ○リナさんはしっかりと彼らと向き合っていた。
その夜、消灯時間を過ぎたのにキャンプに灯りがあったのでのぞき込むと、
ファ○リナさんが傷病兵の上で跳ねているではないか。
傷ついて動けない傷病兵を慈しむように見つめながら、腰を振り続けるファ○リナさん。
一人ヌキ終わると隣のベッドに行き、同じように騎乗位を続けていく。
そのたたずまいはさながら戦場をかけめぐる看護婦のようだった。
まさに女神だ！ファ○リナさん！さすが僕の惚れた人だ。
尊敬とモヤモヤが混じりながら僕はその光景にくぎ付けになっていた。

ブピピピ
ドビュ

○月×日
同志に仇なす者たちを追いかけ、僕とファ○リナさんはとある辺境の村に来ていた。
村人の話を聞くとどうやらここにタキシード姿の男が訪れたらしい。ビンゴだ。
しかし行先については、村人は頑なに口を閉ざした。どうやらその男に恩義があるらしい。
敵であるのに、憎き相手であるのに人の心を掴む善行をしているというのか。
その晩、そんな複雑な思いをめぐらせていると隣の部屋から知っている人の嬌声が聞こえてきた。
静かにのぞき込むとファ○リナさんが昼間の男とまぐわっているではないか。
男のイチモツはファ○リナさんの尻の穴にメリメリと入り込み、いやらしい音を立てる。
昼間の凛々しさはどこにいったのか、
男は歓喜の顔に歪みながら僕らが聞きたかった情報を精液と共に漏らしていた。

ドビュル
ビュルルル
ビュ

○月×日
今日は組織の拡大を狙うために広告の作成が行われた。
組織がいつも刊行している雑誌の表紙は決まってちょっとエロいポーズをしているファ○リナさんらしい。
なんでも勇猛で血気盛んな若者を集めるのには、性的なものが一番らしい。
最近では高騰するエロ需要にこたえるため、
普通にセックスするファ○リナさんの無修正写真を袋とじにしているらしい。
今日も組織の中でも特にテクのある兵士がファ○リナさんを抱いていた。
怒張した男根を何度もピストンされて、カメラに向けて妖艶な笑みを浮かべるファ○リナさん。
これじゃなんの雑誌の撮影かわからない。まるでＡＶじゃないか。

ドビュルル
ビュブュビュ!

○月×日
同志の命を狙う輩の足止めに成功したとかで、下級兵士に褒賞が与えられることとなった。
あろうことか下級兵士はファ○リナさんを一晩好きにする権利を要求、これに同志は笑顔で答えていた。
その晩こっそりとファ○リナさんの自室を覗いたら、下級兵士におもいっきりバックから突かれていた。
まるで恋人がするかのような激しいセックスに嫉妬の炎が燃え上がる。
兵士は今度また褒賞を取ったらアナルでしてほしいとか言っていた。
ファ○リナさんは笑顔で「頑張って」と言っていた。
ちくしょう。僕なら輩の足止めどころか仕留めてくるというのに。

ビュルル
ドビュル

○月×日
今日普通にパイロットルームに行ったらガド○ドさんとファ○リナさんが
普通にセックスをしていた。
なんでも流体を操り覚醒状態へと至るための極意を身体で教えているらしい。
とかなんとかいって、ただその豊満な肢体を犯したいだけじゃないのかクソゴリラ。
寡黙で硬派で実直で……尊敬していたのに、ちょっと軽蔑する。
ガド○ドさんのデカマラを入れられて終始喘いでいたファサリナさんを見ると、
モヤモヤが強くなった。
これは本当に訓練なのだろうか。
ガド○ドさんなんてタキシード野郎にさっさと殺されればいい。

ビュク
ビュルルルル

○月×日
なんということだ、ファ○リナさんが同志の命を狙う一味に捕まってしまった！
僕はすぐに救出のために奴らの母艦に潜入したが、そこには驚くべき光景が広がっていた。
歳不相応に威勢のいいジジイ達が、ファ○リナさんをレイプしていたのだ。
正義の鉄槌を喰らえだの心を入れ替えろだの言いながら、
ファ○リナさんを輪姦していくそのチームワークは見事だ。
チビのジジイが尻を、ヒョロいジジイが口を、そしてデカいジジイがマンコを
……なんと三穴責めをしていたのだ。
これにはさすがに百戦錬磨のファ○リナさんもなすすべもなく、気持ちよさそうによがっていた。
ちくしょう。色欲ジジイめ、許してはおけない。

ビュル
ドビュ
ビュク
ビュ

○月×日
水着王国ミズーギィに僕らは来ていた。ここにあるという金属技術は計画遂行に必要不可欠な要素らしい。
僕らは女王に謁見しようとすると、なんと因縁のタキシード男の一味と出くわしてしまう。
女王はスキモノなのか、僕らの諍い事に首を突っ込み、勝負に勝った方の言うことを聞いてやろうと仰った。
その勝負とは憎き男をどちらがより多く骨抜きに出来るかという勝負だった。
相手の色黒女はどうやらファ○リナさんの因縁の相手らしく珍しく闘志を燃やしている。
僕らのファ○リナさんが負ける訳ない！頑張れファ○リナさん！水着姿も素敵だ！

ビュル
ビュク
ドピュ
ヌビュ!

○月×日
僕らの戦争は敗北という形で終わりを告げた。
同志はタキシード野郎に仇討ちされ、計画はあと一歩のところで失敗となった。
命からがらなんとか逃げだせた組員はわずかだった。
計画失敗の責任は当然ながら幹部に向けられ、
ファ○リナさんは新人の僕を庇って、全ての責任を被ることとなった。
怒りと憎しみに刈られながらファ○リナさんを犯し続けるかつての仲間たち。
同志が死んで失意に沈むファ○リナさんはうつろな目をしながら、大勢の男たちの相手を三日三晩し続けた。
ああ同志。同志が目指したかったのはこんな世界だったのですか？

ビュルルル
ビュル
ドビュ
ビュルル